

コアレクチャー

超高齢社会における フレイル、サルコペニアの意義

【日時】平成29年9月1日(金)18:00~19:30

【場所】5F「きたのホール」

【講師】荒井 秀典 先生

国立長寿医療研究センター副院長
老年学・社会科学研究センター長

【対象】全職員

【座長】福井 基成先生

副院長・呼吸器センター長



加齢に伴う症候群であるサルコペニア(Sarcopenia)とフレイル(Frailty)は、要介護の主な原因の1つであり、その脆弱性は不可逆なものと考えられてきましたが、適切な介入により一部は維持・改善できることが近年明らかになってきています。今回、生命・機能予後の推定に大きく影響することからも、高齢者診療にたずさわる全ての医療者にとって無関係ではいられないサルコペニア・フレイルの定義と意義について、荒井先生にわかりやすく解説いただきます。

【講師プロフィール】

➤ 現 職

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 副院長

老年学・社会科学研究センター長

➤ 所属学会

日本サルコペニア・フレイル学会 代表理事、日本老年医学会 副理事長、代議員

【医師研修管理委員会主催】